

## 令和元年度第3回多摩市一般介護予防事業評価委員会における意見照会 (報告)

令和元年度第3回多摩市一般介護予防事業評価委員会は委員の皆様へ書面を送付させていただきました、以下のようなご意見をいただきました。

### 1 多摩市介護予防・日常生活支援総合事業の令和元年度実績について

- ・後期高齢期にこそ必要となる通いの場はできなくなって、やめるでは意味がなくなってしまうため、専門職の支援が特に大事と思われる。
- ・元気塾は通いの場が広がるほど重要度が増すと考えられるため、地域ごとに二次予防が行えるシステムを守れるようになると良いのでは。
- ・住民主体による訪問型サービスについて、担い手の確保も重要だが、利用される側が気兼ねなく利用できるように仕組みを整える必要もある。
- ・住民主体による訪問型サービスは、住民が生活サポートを受けるということ自体に不安や抵抗感を持っている方が多いのではないかと。そのため、未利用者が体験できるような、「お試し」を設けてみるのはいかがでしょうか。
- ・TFPPについて、延べ人数ではなく、実人数が分かるとフォローができるのでは。

### 2-1 令和2年度からのフレイル予防事業の変更点について (案)

- ・ファーストチェックとセカンドチェックの因子構造が類似しており、ファーストチェックのみでチェックしフォローする提案は無理がなく可能なのではないかと。これによりチェックの反復が避けられ、市民にとってメリットとなるのでは。
- ・地域介護予防教室や、小・中規模会場で、簡素化された TFPP を実施することにより、「お手軽感」が増し、参加者の増加と高齢者の外出機会の創出につながるのでは。
- ・地域介護予防教室での TFPP は、マンネリになりがちな活動にメリハリをつけたり、担い手活動には有効では。
- ・短時間（簡易的）になることでより多くの人に参加してもらえるのでは。

### 2-2 TAMA フレイル予防プロジェクト2019年度測定会実施報告

- ・参加の平均年齢は後期高齢期以降となっており、心身の衰えが気になり始めた方が参加されており、行動変容ステージ上、準備期から実行期への移行期であり、活動に対してできるだけ参加しやすい環境となるように住民も交えてチームで検討をするとよいのでは。
- ・地域とのつながりが少ない人は少なく、良い。
- ・測定会のリピーターを増やすことについて、フレイルチェックをリピートすることが、自身の健康状態の確認にもなるという気付きが参加者全員に得られれば良い。そ

のために、初参加の方へも繰り返しチェックを受けるメリットについて地道に啓発していく必要があるのでは。

- ・リピーターを増やす工夫が必要では。

### 3 第8期多摩市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画に向けた多摩市介護予防事業のあり方

・人材不足はよく聞かれる問題であるが、都内壮年者に対する意向調査では、リーダーをしたいと考えている人は2割を超えており、今後高齢となる方も意欲がある方である。しかし、すでにあるグループに対する敷居は高く感じている人が多いため、今後新たなグループの創出が重要。

・将来的に市民が軽度者の介護サービスを担う確率が高まっており、ボランティアだけではサービスの量は限界となるため、ある程度の仕事として介護サービスを担う仕組みを第8期から模索していく必要があるのでは。

・地域リハ活動支援事業は、地域包括支援センターの負担軽減の観点から、C型サービスにリハ職を積極的に関与させ、専門職の予後予測に基づくケアプランを提案できるようにすると良いのでは。

・住民主体の訪問型サービスの稼働率を上げるためには、利用者にとって共助のサービスと同様と感じらえる工夫が必要なのではないか。

・担い手や場所の問題もあるが、各地域で通いの場が増えて地域差がより少なくなるという期待している。介護防り予ーダー等より若い世代が興味を持ってくれるような普及・啓発が必要では。

・TFPP等測定者の負担減や、今後の担い手が減少することを見据えて、一本化を図ったほうがよいのでは。

- ・元気塾、住民主体の訪問型サービスは利用への敷居を低くすると良いのでは。